

# 令和5年度 校内研究実施計画書

## 1 研究主題及び教科

研究主題	「生徒の主体性を育てるための指導の工夫」 —探究のプロセスと互いにつながりあう取組を通して—
教科・領域	授業を中心としたすべての教育活動

## 2 主題設定の理由

本校でこれまで取り組んできた「自己効力感」を育てることについては、鳴門教育大学と連携したアンケートの結果から、「自己効力感」に該当する項目の数値において、市内で比べても十分な値であることが分かった。そのため、今年度から研究主題を変えていく方向になった。

校内研修の中で、本校の生徒の実態をKJ法で整理したところ、指示されたことは一生懸命こなすことができる素直さがある反面、受け身や指示待ちになりがちであるといった課題があることが明らかになった。そこで、「生徒の主体性を育てるための指導の工夫」を主題とし、研究を進めていくこととなった。

本校では、生徒に主体性のある状態を以下の4つと仮定し、研究を進めていくこととした。

- ① 自分の考えを主張できる。
- ② 失敗を恐れずチャレンジする意欲がある。
- ③ 自分で判断し、行動を選択することができる。
- ④ 事象を自分事として捉え責任を持つことができる。

### 3 研究内容及び方法

本校では、これまで「いいところみつけ」を活用した教員からの承認活動に加え、生徒同士の承認活動を2週間に1度のペースで実施してきた。今年度は、この取り組みを学習者用端末を用いて行い、生徒がいつでも「いいところ」を入力し、確認できるようにする。具体的には、Google フォームとそこから紐づけされるスプレッドシートを活用し、送り手と宛先を選択し、メッセージを送るという手法を取る。これによって、これまで効果的であったものの、教員の負担や把握すべき点が多かったこの取り組みを円滑に行うことができると考えている。

授業では、課題の設定から、まとめや発表の仕方まで、学習過程の大半を教師主導で行っていることによって、授業の中で生徒が受動的になっているのではないかという仮説を立てた。そこで、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの探究のプロセスを生徒が意識して取り組むことで、主体性のある状態にできると仮定し、生徒自身が学びをコントロールする場면을授業の中で作っていくことを目指すこととした。

しかし、このような授業を行っていくには生徒に対して学習過程を意識させ、今の活動は何のために行っているのかを明確にさせるとともに、思考ツール・ICTの活用やペア、グループでの活動など、多様な学習形態があり、どの場面でどの手段が有効かを経験させる必要がある。したがって、まずは授業者が4つの探究のプロセスのサイクルを踏まえながら、多様な学習方法や学習形態を提示し、積極的に授業デザインの作成や授業公開を重ね、実践数を増やしていく。

#### 4 年間研修計画

一 学 期	4月：本年度の取組内容・計画 シラバスの確認及び年間指導計画の作成 5月：学級経営と不登校についての理解に関する研修（生徒指導主事） 6月：先行事例見学（春日井市高森台中学校） 特別な支援を要する生徒への手立てとインクルーシブ教育について （特別支援コーディネーター） 7月：授業研究（3年生） 8月：各教科でのICT活用事例紹介・端末持ち帰り課題について （ICTサポーター）
二 学 期	9月：個別最適な学びについて（鳴門教育大学） 先行事例見学（春日井市高森台中学校） 10月：授業研究（2年生） 11月：授業研究（1年生）
三 学 期	12月：総合的な学習の時間における情報活用能力の育成 生徒アンケート実施 1月：本年度の取り組みの反省 3月：来年度の取り組みの決定